

平成30年度「郡上市文化財巡り」高鷲で開催！

平成30年度郡上市文化財保護協議会の「郡上市文化財巡り」が、10月13日(土)に高鷲町を中心に行われた。参加者は30名。当日は、八幡町、美並町、大和町、白鳥町、地元高鷲町から大勢の参加者があり、高鷲町民センターの「高鷲開拓記念館」に午後1時までに集合した。

最初、高橋教雄市文化財保護協議会長の挨拶後、馬淵会長から本日の行動日程の説明があり、いよいよ文化財巡りの開始である。私たちは、開拓記念館の入り口でまず馬淵会長から、高鷲開拓記念館について次のような説明を受けた。

「高鷲村は、貧困からの脱出、人口増加に伴う地域内の人員整理、国策による満洲への集団移住、戦時下の食糧増産のための大規模開墾、戦後の新農村建設政策などによって、戦後三白産業として自然環境を生かし、所得を上げ、岐阜県有数の村となった。これは村人に切り拓く力があつた事の証明であり、この力を開拓資料館として残す」とお話の後、麦島顧問からは環春高鷲開拓団について説明を受けた。その後は館内を自由に見学した後、参加者は乗用車に分乗して、明谷の山川弘至記念館へと向かった。

山川記念館では、弘至氏の弟さんで山川家当主の山川清至氏の出迎えを受け、同氏から山川家の歴史、弘至氏の経歴など、山川記念館の展示物について簡単な説明を受けた後、グループに分かれて見学し、山川家の裏に立っている弘至氏と京子さんの歌碑をおまいりして、明谷の秋を満喫した。参加者の中には「こんな田舎に、金田一京介、棟方志功の版画、松本清張などの書簡があることが不思議だ」と感想を漏らされた。

最後の見学場所は、切立にある宝暦騒動で首謀者の一人、切立村喜四郎の墓に参拝した。ここでは副会長の西脇氏が説明され、「なぜ、喜四郎は定次郎より年が上なのに、映画や演劇では定次郎ばかり脚光を浴びるのか分からない」と問題提起された。

最後に、喜四郎の墓の前で一同記念写真で終了した。



開拓記念館で説明する馬淵氏(鷲見氏撮影)



山川記念館玄関で説明する山川氏(〃)



喜四郎の墓の前で説明する西脇氏(〃)